

数学科 学習指導計画案

指導教員 _____

・学校名	中学校	指導教員	実習生
・日時	平成27年5月28日 (木曜日) 第3校時	場所	2年3組教室
・対象	2年3組 (生徒数: 男子19名, 女子17名; 合計36名)		
・単元名	2章 連立方程式		

・単元の主たる内容と目標

- (1) 二元一次方程式とその解の意味を理解することができる。
- (2) 連立方程式の必要性と意味、及びその解の意味を理解することができる。
- (3) 簡単な連立方程式を解くこと、及びそれを具体的な場面で活用することができる。

・単元の指導計画 (配当時間および本時の位置づけ)

1節 連立方程式		
… 1 連立方程式とその解(節とびら含む) (2時間)		
… 2 連立方程式の解き方 (7時間)←本時はその第3時		
2節 連立方程式の利用 (5時間)		
章末(基本のたしかめ、章末問題) (2時間)		
		計16時間

・本時の主題名 連立方程式の解き方 (加減法, 両方の式を何倍かして解くこと)

・本時に使用する教材・教具

(教科書(啓林館「未来へひろがる数学2」), ワーク, プリント)

・本時の目標

前時のどちらかの式を何倍かして解くことを基として、両方の式を何倍かして解くことを理解させる。また、解くことができるようにさせることを目標とする。

<教材観・題材観>

加減法において、単純に左辺どうし、右辺どうしの加減のみで解ける間からどちらかを何倍かする間へと順次拡張されている。
本時においては、どちらかを何倍かする間から両方の式を何倍かする間へと拡張する時間となっている。

<生徒観>

まじめで落ち着いた生徒が多く、静かに授業を受ける環境づくりがなされている。ただ、積極性には少し欠けている部分があり、こちら側からの働きかけを充実させる必要がある。

<指導観>

発問・机間指導を通じて、積極的に生徒の声を集めていく必要がある。その中で、本時の目標がどの程度達成されているかを確認していく。

・本時の評価の観点

関心・意欲・態度	見方や考え方	技能	知識・理解
加減法とその基になっている考え方に関心をもち、連立方程式を解こうとする。	加減法で連立方程式を解く過程を振り返り、その方法について考えることができる。	加減法を用いて、連立方程式を解くことができる。	加減法による連立方程式の解き方を理解している。

・本時の指導過程

	指導項目	指導内容	学習活動		指導上の留意点	時間
			教師のはたらきかけ	生徒の学習活動		
導入	忘れ物調べ	教科書・ワーク・ノートの持参状況を確認する。	「まずは忘れ物チェックをしていきます。」	指示に従い、教科書・ワーク・ノートを掲げる。	教師自ら率先して持ち物を掲げる。	17分
	宿題の答え合わせ	前回の宿題であるプリント(2-1-2①)を生徒が自ら答え合わせする。 前回の宿題であるp.36 問4の答え合わせを黒板を用いて行う。	「プリントの答えを配ります。」 「一番後ろの席の人、プリントを集めて来てください。」 生徒を当てて、解答させていく。	答えを見ながら、丸つけ、及び間違い直しをする。 答え合わせしたプリントを提出する。 黒板を見ながら、解答を確認する。 当てられた生徒は解答していく。	宿題をして来なかった生徒へは解答を裏返し、生徒自ら解くことを促す。 (2)は解法が2種類ある。	
展開	両方の式を何倍かして解く連立方程式	p.36 例題1を用いて、どちらかの式を何倍かするだけでは解けない連立方程式を考える。 独自の例題1'を用いて、両方の式を何倍かして解く連立方程式を定着させる。	まず、x,yそれぞれに対して、どちらかを何倍かするだけでは解けないことを確認。 「前回、片方の式を何倍かしたのと同様に、両方の式を何倍かするということも行ってよいですよ?」 指名、解説し、解答まで板書する。	教科書で例題1を見る。 黒板の内容をノートに写す。 指示に従って考える。 指名されれば、答える。 例題1'を書き写す。 黒板の内容をノートに写す。 指示に従って考える。 指名されれば、答える。	xかyの係数の絶対値を揃えるには、どちらかの最小公倍数で揃えると効率が良いことを確認する。	20分
	生徒が実際に取り組む	p.37 問5を生徒が解く。 宿題プリント(2-1-2②)を配布する。	「では、p.37 問5を解いてください。」 「早く終わった人は宿題プリント、もしくはワークのp.37までをやっているかどうかを確認してください。」 時間に応じて答え合わせする。	p.37 問5を解く。 早く終われば宿題プリント、もしくはワークのp.37までをする。	机間指導をする。	
整理	宿題の確認	本時の宿題内容を確認させる。	「今日の宿題は問5(答え合わせした場合は除く)と、プリントです。」	何が宿題であるかを確認する。		3分
	まとめ	本時の学習内容の要点を再確認する。	「今日は両方の式を何倍かして解く連立方程式に取り組んできましたね。」			